



2022年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2021年10月29日

上場会社名 日本調剤株式会社 上場取引所 東
 コード番号 3341 URL <https://www.nicho.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 三津原 庸介
 問合せ先責任者 (役職名) 経営企画部長 (氏名) 東條 祐弘 TEL 03-6810-0800
 四半期報告書提出予定日 2021年11月12日 配当支払開始予定日 2021年12月6日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2022年3月期第2四半期の連結業績 (2021年4月1日～2021年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年3月期第2四半期	146,202	7.5	2,416	△12.9	2,528	△5.1	1,340	△13.8
2021年3月期第2四半期	135,999	4.4	2,774	△31.8	2,665	△33.4	1,555	△25.7

(注) 包括利益 2022年3月期第2四半期 1,351百万円 (△13.8%) 2021年3月期第2四半期 1,566百万円 (△25.6%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年3月期第2四半期	44.71	—
2021年3月期第2四半期	51.89	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年3月期第2四半期	184,363	50,844	27.6
2021年3月期	186,262	49,868	26.8

(参考) 自己資本 2022年3月期第2四半期 50,844百万円 2021年3月期 49,868百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年3月期	—	12.50	—	12.50	25.00
2022年3月期	—	12.50	—	—	—
2022年3月期(予想)	—	—	—	12.50	25.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2022年3月期の連結業績予想 (2021年4月1日～2022年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	294,600	5.6	7,000	△13.6	7,000	△16.8	4,000	13.0	133.39

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更： 有
- ② ①以外の会計方針の変更： 無
- ③ 会計上の見積りの変更： 無
- ④ 修正再表示： 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2022年3月期2Q	32,048,000株	2021年3月期	32,048,000株
② 期末自己株式数	2022年3月期2Q	2,061,135株	2021年3月期	2,061,074株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2022年3月期2Q	29,986,886株	2021年3月期2Q	29,987,100株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(1) 将来に関する記述等に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、現在入手している情報による当社の判断及び仮定に基づく予想であり、リスクや不確実性を含んでいます。また、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。実際の業績は、今後様々な要因により、これら業績予想等とは大きく異なる結果となる場合があります。

(2) 四半期決算補足説明資料の入手方法

当社は、2021年11月5日に機関投資家・アナリスト向け決算説明会を開催する予定です。当日使用する資料についてはTDnetにて開示し、当社ホームページへも掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(会計方針の変更)	10
(セグメント情報等)	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間（2021年4月～2021年9月）における我が国経済は、新型コロナウイルス感染症の影響が継続し、8月には過去最多となる新規感染者数を記録するなど、個人消費の低迷や企業活動の制限が続いております。一方でワクチン接種等の対策は進みつつあり、各種政策の効果や海外経済の改善から持ち直しの動きがみられるものの、感染症再拡大による下振れリスクもあり、先行きは依然として不透明な状況が続いております。

このような経済情勢のもと、当社グループでは、地域医療を担う医療機関として果たすべき使命を強く認識しながら、調剤薬局各店舗における感染防止対策を徹底しつつ、良質な医療の提供に努めてまいりました。また、収益性向上のため全社を挙げたコスト抑制にも継続して取り組んでおります。

調剤薬局事業においては、急速に進む医療分野におけるデジタルトランスフォーメーションに、これまでも同業他社に先行して取り組んでまいりましたが、長期ビジョンの実現に向けて取り組みをさらに加速させるため、「デジタルトランスフォーメーション戦略（DX戦略）」を本年8月に策定・発表いたしました。その戦略実行の一環として、薬局の多店舗オペレーション改革ツール「JP-Dream」を導入し、業務プロセスのデジタル管理化、業務効率化を推進しております。また、病院や薬局のDI業務をサポートするための医薬品情報プラットフォーム「FINDAT（ファインダット）」においては、当社調剤薬局への導入が進む中、全国の医療機関や教育機関でも高い評価を受けておりますが、更なる事業拡大のために、メディカル・データ・ビジョン株式会社と医療機関向けの代理店販売契約を締結いたしました。また、新型コロナウイルス感染症の早期収束に向けた取り組みとして、社会的PCR検査「SocRTes（ソクラテス）」の企業・団体向け販売を開始、8月にはデルタ株などの変異株も特定可能なPCR検査の導入、さらに抗原検査キットの取り扱いを開始するなど、積極的な取り組みを継続して行っております。

医薬品製造販売事業においては、グループシナジーの発揮に加え、研究開発投資による新規薬価収載品を含む自社製造品目の拡大及び生産性の向上に取り組んでまいりました。また、2018年の稼働以来、生産数量が年平均70%を超えて拡大してきた「つくば第二工場」のさらなる生産能力拡大に向けて、未稼働エリアの稼働に向けた検討を開始しております。一方で、当社子会社である長生堂製薬株式会社においては、本年10月11日、徳島県より「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」に基づく行政処分を受けました。当社グループは、この度の行政処分を重く受け止めており、長生堂製薬株式会社による業務改善計画の着実な遂行に加えて、グループ一丸となって再発防止及び品質管理の向上に取り組んでまいります。

医療従事者派遣・紹介事業においては、新型コロナウイルス感染症の影響による薬剤師派遣の需要減少が続いておりますが、新型コロナウイルスワクチン接種関連業務の需要は継続して増加しており、医師紹介事業は拡大いたしました。

当第2四半期連結累計期間における経営成績は、売上高146,202百万円（前年同期比7.5%増）、営業利益2,416百万円（同12.9%減）、経常利益2,528百万円（同5.1%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益1,340百万円（同13.8%減）となりました。

引き続き当社グループは、患者さま・お客さまに安心してご利用いただくため、新型コロナウイルス感染症の拡大防止に全力で取り組み、良質な医療の提供を継続してまいります。

セグメント別の経営成績は以下の通りです。

①調剤薬局事業

当第2四半期連結累計期間の売上高は128,749百万円（前年同期比8.9%増）、営業利益は5,041百万円（同39.1%増）となりました。

9月末時点での総店舗数は、同期間に20店舗の新規出店、5店舗の閉店を行った結果、計685店舗（物販店舗1店舗を含む）となりました。

売上高及び営業利益につきましては、新型コロナウイルス感染症の影響が継続しているものの、前年度の出店効果及び処方箋枚数や薬剤料収入の増加等により増収増益となりました。

なお、ジェネリック医薬品の数量ベース使用割合は、当社グループでは9月末時点で全社平均88.2%となりました。また、在宅医療実施店舗の割合は92.0%（年間12件以上実施の店舗割合）と順調に推移しております。

②医薬品製造販売事業

当第2四半期連結累計期間の売上高は23,669百万円（前年同期比3.8%増）、営業利益は195百万円（同83.2%減）となりました。

売上高につきましては、2021年4月の薬価改定に伴う既存製品の販売価格の下落があった一方、2019年、2020年及び2021年6月の新規薬価収載品の好調な販売等により増収となりました。営業利益につきましては、コスト削減の取り組みに加え、収益性を重視した販売方針及び新規薬価収載品を含む自社製造品目の販売拡大は継続しているものの、長生堂製薬株式会社の品質問題による製品回収及び製造遅延の影響等により大きく減益となりました。

なお、当第2四半期連結会計期間末での販売品目数は、新規薬価収載品12品目を発売したことなどにより673品目（一般用医薬品2品目を含む）となりました。

③医療従事者派遣・紹介事業

当第2四半期連結累計期間の売上高は3,648百万円（前年同期比27.4%減）、営業利益は440百万円（同36.7%減）となりました。売上高につきましては、新型コロナウイルス感染症の影響により薬剤師派遣の需要が減少し、減収となりました。営業利益につきましては、新型コロナウイルスワクチン接種関連業務の需要が継続し医師紹介の実績が拡大している一方で、薬剤師派遣が縮小した影響等により減益となりました。

（2）財政状態に関する説明

当第2四半期連結会計期間末における資産合計は184,363百万円となり、前連結会計年度末の186,262百万円に対し、1,899百万円、1.0%減少いたしました。主に、現金及び預金の減少によるものです。

負債合計は133,518百万円となり、前連結会計年度末の136,394百万円に対し、2,875百万円、2.1%減少いたしました。主に、長期借入金の減少によるものです。

純資産合計は50,844百万円となり、前連結会計年度末の49,868百万円に対し、976百万円増加いたしました。この結果、自己資本比率は27.6%となりました。

（キャッシュ・フローの状況）

当第2四半期連結累計期間におけるキャッシュ・フローは、営業活動によるキャッシュ・フローが10,718百万円、投資活動によるキャッシュ・フローが△4,993百万円、財務活動によるキャッシュ・フローが△10,861百万円となりました。この結果現金及び現金同等物の四半期末残高は前連結会計年度末に対して5,135百万円減少し、27,758百万円となりました。

「営業活動によるキャッシュ・フロー」では、主な収入項目は、仕入債務の増加額7,140百万円であり、主な支出項目は、棚卸資産の増加額5,685百万円であります。

「投資活動によるキャッシュ・フロー」では、主な支出項目は、調剤薬局事業における既存設備の整備及び新規出店などによる投資を主とした有形固定資産の取得による支出3,180百万円であります。

「財務活動によるキャッシュ・フロー」では、主な支出項目は、長期借入金の返済による支出10,683百万円であります。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2022年3月期の通期業績予想につきましては、2021年4月30日に公表いたしました数値を修正しております。

内容につきましては、本日（2021年10月29日）公表いたしました「通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	32,893	27,758
受取手形	80	42
売掛金	21,050	—
売掛金及び契約資産	—	18,969
電子記録債権	831	408
商品及び製品	23,139	28,740
仕掛品	1,413	1,425
原材料及び貯蔵品	6,174	6,347
その他	3,668	3,402
貸倒引当金	△6	△6
流動資産合計	89,246	87,088
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	29,566	29,290
土地	14,198	14,136
建設仮勘定	1,649	1,328
その他（純額）	19,370	19,627
有形固定資産合計	64,785	64,383
無形固定資産		
のれん	16,508	16,233
その他	2,443	2,675
無形固定資産合計	18,952	18,909
投資その他の資産		
投資有価証券	16	16
敷金及び保証金	8,288	8,636
その他	4,972	5,329
投資その他の資産合計	13,277	13,982
固定資産合計	97,015	97,275
資産合計	186,262	184,363

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年9月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	44,044	51,130
電子記録債務	2,742	2,970
1年内返済予定の長期借入金	27,966	26,766
未払法人税等	884	1,700
賞与引当金	3,602	3,977
役員賞与引当金	46	5
その他	8,434	7,379
流動負債合計	87,720	93,931
固定負債		
長期借入金	42,997	34,014
役員退職慰労引当金	199	64
退職給付に係る負債	2,153	2,260
その他	3,323	3,247
固定負債合計	48,673	39,587
負債合計	136,394	133,518
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,953	3,953
資本剰余金	10,926	10,926
利益剰余金	38,551	39,517
自己株式	△3,500	△3,500
株主資本合計	49,931	50,897
その他の包括利益累計額		
退職給付に係る調整累計額	△63	△52
その他の包括利益累計額合計	△63	△52
純資産合計	49,868	50,844
負債純資産合計	186,262	184,363

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月 1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月 1日 至 2021年9月30日)
売上高	135,999	146,202
売上原価	112,726	121,007
売上総利益	23,272	25,194
販売費及び一般管理費	20,498	22,778
営業利益	2,774	2,416
営業外収益		
受取手数料	16	18
受取賃貸料	219	247
受取補償金	51	—
受取保険金	—	132
補助金収入	—	30
その他	75	204
営業外収益合計	363	634
営業外費用		
支払利息	162	156
支払賃借料	166	188
その他	143	176
営業外費用合計	473	522
経常利益	2,665	2,528
特別利益		
固定資産売却益	373	5
役員退職慰労引当金戻入額	—	46
特別利益合計	373	52
特別損失		
固定資産廃棄損	375	—
減損損失	—	228
固定資産売却損	0	—
特別損失合計	375	228
税金等調整前四半期純利益	2,662	2,352
法人税、住民税及び事業税	988	1,422
法人税等調整額	118	△409
法人税等合計	1,106	1,012
四半期純利益	1,555	1,340
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,555	1,340

四半期連結包括利益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月 1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月 1日 至 2021年9月30日)
四半期純利益	1,555	1,340
その他の包括利益		
退職給付に係る調整額	10	10
その他の包括利益合計	10	10
四半期包括利益	1,566	1,351
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,566	1,351

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月 1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月 1日 至 2021年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	2,662	2,352
減価償却費	3,064	3,162
減損損失	—	228
のれん償却額	868	898
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△0	0
賞与引当金の増減額 (△は減少)	365	374
役員賞与引当金の増減額 (△は減少)	△70	△40
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	90	104
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	△292	△134
受取利息及び受取配当金	△0	△0
支払利息	162	156
固定資産売却損益 (△は益)	△372	△5
売上債権の増減額 (△は増加)	2,903	2,673
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△4,847	△5,685
仕入債務の増減額 (△は減少)	2,496	7,140
未払金の増減額 (△は減少)	△54	△693
その他	△84	1,152
小計	6,891	11,686
利息及び配当金の受取額	0	0
利息の支払額	△114	△113
法人税等の支払額	△4,343	△853
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,434	10,718
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△2,750	△3,180
有形固定資産の売却による収入	958	72
無形固定資産の取得による支出	△344	△634
長期前払費用の取得による支出	△61	△71
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	—	△597
事業譲受による支出	△841	△178
貸付けによる支出	△0	—
貸付金の回収による収入	43	43
敷金及び保証金の差入による支出	△230	△500
敷金及び保証金の回収による収入	89	76
その他	△20	△23
投資活動によるキャッシュ・フロー	△3,158	△4,993

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月 1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月 1日 至 2021年9月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△100	—
長期借入れによる収入	8,000	500
長期借入金の返済による支出	△8,122	△10,683
自己株式の取得による支出	△0	△0
配当金の支払額	△374	△374
その他	△284	△303
財務活動によるキャッシュ・フロー	△882	△10,861
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△1,606	△5,135
現金及び現金同等物の期首残高	32,254	32,893
現金及び現金同等物の四半期末残高	30,647	27,758

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしております。

この結果、当第2四半期連結累計期間の損益に与える影響はありません。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っておりますが、当連結会計年度の利益剰余金の当期首残高への影響はありません。

収益認識会計基準等を適用したため、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「流動資産」に表示していた「売掛金」は、第1四半期連結会計期間より「売掛金及び契約資産」に含めて表示することとしました。なお、収益認識会計基準第89-2項に定める経過的な取扱いに従って、前連結会計年度について新たな表示方法により組替えを行っておりません。さらに、「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号2021年3月31日)第28-15項に定める経過的な取扱いに従って、前第2四半期連結累計期間に係る顧客との契約から生じる収益を分解した情報を記載しておりません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				調整額 (注)	四半期連結 損益計算書 計上額
	調剤薬局 事業	医薬品製造 販売事業	医療従事者 派遣・紹介 事業	計		
売上高						
(1) 外部顧客に対する売上高	118,236	12,771	4,992	135,999	—	135,999
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	10,041	32	10,073	△10,073	—
計	118,236	22,812	5,025	146,073	△10,073	135,999
セグメント利益又は損失(△)	3,624	1,163	696	5,484	△2,709	2,774

(注) セグメント売上高合計及びセグメント利益合計と、四半期連結損益計算書の売上高及び営業利益との調整を行っております。なお、セグメント利益又は損失の調整額△2,709百万円にはセグメント間取引消去△79百万円及び全社費用△2,629百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

II 当第2四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				調整額 (注)	四半期連結 損益計算書 計上額
	調剤薬局 事業	医薬品製造 販売事業	医療従事者 派遣・紹介 事業	計		
売上高						
(1) 外部顧客に対する売上高	128,749	13,809	3,642	146,202	—	146,202
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	9,859	5	9,864	△9,864	—
計	128,749	23,669	3,648	156,067	△9,864	146,202
セグメント利益又は損失(△)	5,041	195	440	5,677	△3,260	2,416

(注) セグメント売上高合計及びセグメント利益合計と、四半期連結損益計算書の売上高及び営業利益との調整を行っております。なお、セグメント利益又は損失の調整額△3,260百万円にはセグメント間取引消去△63百万円及び全社費用△3,197百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「調剤薬局事業」セグメントにおいて、店舗資産(5店舗)等の減損損失228百万円を計上しております。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。